



クチナシ

1、2024年度モニタリング報告－3

1) H地点

H地点とその西側（指定地外）は木を伐り、ネザサやコシダ等を除草したところです。今年と来年の2か年の作業で木の伐採を続け、その後、重機で伐根作業を行う予定です。

下左写真は作業直後の状態です。画面左手前に裸地化した湿地がありますが、この奥は森林化し暗い森になっていたところでした。右側はコシダの群落になっていたところで、礫の上にコシダの根が10～15 cm程度の厚さで堆積しています。森だったところも、木やネザサ等の根を中心とした層が堆積し、全体に布団を敷いたような状態になっています。画面奥の中央にやや黒くなった部分がありますが、ここは浅い谷状になっており、雨が降ると水が流れ出てきます。布団の下には良好な湿地だったころの地表面が隠れており、上にかぶさった布団の切れ目から水が流れ出している状態です。ここは、葦毛湿原で最後までミカワシオガマが残っていたところです。ミカワシオガマは半寄生植物だとされています。地下茎が残っていることを期待して根の除去は行わず、木の伐採と地表面の落ち葉を除去して日照確保だけを行いました。再生に向けた最後の挑戦になりそうです。

裸地との境にはミズゴケが帯状に山になって堆積しています。裸地化したところと根の層の境からは面的に水が流れ出しており、この部分にミズゴケが発達しているのが分かりました。ミズゴケは水量が多い所に堆積して水が流れ出るのを邪魔しているようです。



H地点作業直後（2024年4月4日）

H地点作業後約2か月（2024年6月11日）

上右写真は作業2か月後の状態です。裸地化した湿地部分にはモウセンゴケが多く出現し開花しました。これまでと同じような状態です。切り株からは萌芽が伸びていますが、地表面からの植物の発芽は少ない状態です。手前の湿地に近接する部分では、これまで見られたササやヌマガヤが発芽しています。

植物の根がマット状に絡み合っている表土層を除去すると、良好な湿地だった時の地表面が現れ、湿地に再生すると思われます。今後は木の伐採作業が終わってから、バックホーを入れて伐根と根の除去を進める予定です。

2) I地点（ホソバリンドウ実験区）

I地点ではホソバリンドウの再生に向けてイヌノハナヒゲやヌマガヤを根から除去する実験区を設置しました。冬の作業でホソバリンドウがあるところを木の枝で囲って手を付けず、周りのヌマガヤ等を除去しました（下左写真）。木で囲った区画は4か所でしたが、新たに1か所でホソバリンドウの発芽が確認できました。下右写真の中央左側にある井桁になった小さな区画内から2株が発芽しました。他の区画内からはヌマガヤが多く発芽していますが、新たに発芽したところはイヌノハナヒゲとヌマガヤの発芽は少なく、まわりの実験区と同様に裸地に近い状態になっています。今後はこの実験区は裸地に近い状態を維持してホソバリンドウが新たに発芽するのかを確認します。



I地点作業直後（2024年4月4日）

I地点作業後約2か月（2024年6月11日）



I地点の新たな発芽地点（2024年6月11日）

ホソバリンドウ発芽状態

3) N地点（ホソバリンドウ実験区）

N地点はI地点の木道を挟んだ東側になります。ここもホソバリンドウの再生に向けてイヌノハナヒゲやヌマガヤを根から除去する実験区を設置しました。冬の作業でホソバリンドウがあるところを木の枝で囲って手を付けず、周りのヌマガヤ等を除去しました（次頁下左写真）。木で囲った区画は1か所でしたが、これ以外に新たに発芽したところはありません。N地点では、これまで3～4か所でホソバリンドウが発芽していましたが、残ったのは1か所だけになってしまいました。今回の実験でヌマガヤやイヌノハナヒゲが抑えられ、裸地に近い状態になりました。この状態を維持することで新たにホソバリンドウが発芽してくることを期待しています。



N地点作業直後（2024年4月4日）



N地点作業後2か月（2024年6月11日）

2、コオニユリが折られました！

葦毛湿原では植生回復作業により地上絶滅したコオニユリが復活し、数を増やしていました。最初に木道脇に出現した個体は開花し始めて5年目になり、高さが2mほどの大きな個体で開花数も最も多く、昨年は9輪が開花しました。葦毛湿原では最も大きく、かつ多数の花をつける見事な個体でしたが、5月に茎が折られているのが見つかりました（下左写真）。

コオニユリの根元は踏みつけられ裸地化していましたが、画面左下方向にあったカザグルマの写真を撮る際に木道を降りて湿地内に踏み込み、邪魔になった茎を折ったものと思われる。コオニユリだと知らずに行ったと思われるが、踏み込まれた状態からは複数の方が踏み込んで写真を撮ったようです。

下右写真にあるように、添木をしてセロテープで巻いて補強しました。補強後はある程度持ちこたえていましたが、一か月たっても成長しませんでした。雨に打たれてセロテープがはがれそうになったので黄色いビニールテープで補強しましたが、その間に右側にある個体は順調に成長して添木をした個体より大きくなりました（次頁右写真）。しかし、添木したところより上は6月末には完全に枯れてしまいました（前頁中写真）。

折られた先は枯れましたが、根元部分は生きています。わずかでも光合成を行って根に栄養を蓄えて来年開花してほしいと期待しています。



折られたコオニユリ（2024年5月6日）



添木の状況（2024年5月8日）



復元状態（2024年5月8日）



約1か月後の状況（2024年6月1日）

3、ナガバノイシモチソウ一般公開

- 1 開催日時 8月2～4日（金～日）9:30～11:30
- 2 集合場所 幸公園北西隅駐車場（佐藤町字池下）
- 3 参加申込 現地受付（事前申し込み不要）
- 4 問い合わせ 豊橋市文化財センター
（☎0532-56-6060）

ナガバノイシモチソウはモウセンゴケ科の食虫植物で、赤花のナガバノイシモチソウは豊橋市と豊明市の



ナガバノイシモチソウ（6月3日）

2か所しか自生していません。日本固有種なので、地球上でこの2か所しか自生地がない貴重な植物です。



枯れた状態（2024年6月29日）

開花期は6～10月頃で、8月に開花のピークを迎えます。太陽が昇ると開花し、12時ころには閉じてしまう一日花ですが、実際には半日（午前中）しか咲きません。指定地はフェンスで囲まれており入れませんが、年1回一般公開をしています。この機会にぜひご覧ください。